

《社会福祉法人双葉会『中・長期計画』》

平成23年 3月28日

I 目 標

この計画は「保育・介護サービス・医療事業」の三位一体を具現展開できるような財政基盤を確立していくことを第一主眼とする。

また、地域住民の少子・高齢化が進み、保育園児の減少、高齢者の要介護者が増加していることから、地域のニーズを分析し、そのニーズに応えられるようサービスを検討していくことを目標とする。

1 介護福祉施設

利用者が終の棲家として、安心して生活できるよう、人権尊重を基本とし、個々のニーズにあったサービス提供やプライバシーに配慮した住環境を見直し、整備することを推進する。

2 保育所

経営の効率化を図り、少子化の中更なる保育サービスの充実を図る。

3 診療所

患者に信頼される経営を展開するため、当直医師の確保、設備・組織体制の充実強化を推進する。

※ この計画は3年ごとに見直しを行うものとする。ただし、関係法令の改定、介護報酬の改定があった場合はこの限りではない。

II 中長期計画の内容

1 経営基盤の確立

サービスの稼働率を高めることにより多く利用者のニーズに応えるとともに経営基盤の確立を図る。

(1) 利用稼働率の向上

① 特別養護老人ホーム寿楽荘: 目標稼働率

・23年度 本体施設 96.0%(要介護度 3.3)、ショートステイ 100%(空床 6 床含む)

・24年度 本体施設 97.0%(要介護度 3.4)、ショートステイ 100%

・25年度 本体施設 97.5%(要介護度 3.4)、ショートステイ 100%

※ 稼働率 98.0%、要介護度 3.4 が現在の職員配置数におけるサービス提供の上限と考える。

※ ショートステイ稼働率もとめ方、延べ利用者数 ÷ (6 名(併設許可人数) × 356) = ショートステイ稼働率

② 特別養護老人ホーム琴清苑: 目標稼働率

・23年度 本体施設 98.0%(要介護度 4.2)、ショートステイ 100%(空床 4 床含む)

・24年度 本体施設 98.0%(要介護度 4.2)、ショートステイ 100%

・25年度 本体施設 98.0%(要介護度 4.2)、ショートステイ 100%

※ 稼働率 98.5%、要介護度 4.2 が現在の職員配置数におけるサービス提供の上限と考える。

③ 氷川保育園: 目標定員充足率

・23年度 75% ・24年度 70% ・25年度 65%

※ 町内の少子化傾向が著しいため下方傾向の目標とする

(2) コストの削減とコスト意識の徹底

- ① 経常経費の削減につめる(目標:3年間で5%)
- ② 各種委託事業の見直しによるコストの削減(目標:3年間で5%)

(3) 人材の育成

- ① 町内若年層の掘り起こしの促進
- ② 町内有資格者の掘り起こしの促進
- ③ 専門職としての資質の向上とキャリアアップ

2 特別養護老人ホーム琴清苑の全面改築

都の特別予算にて耐震改修工事はできたが、全体的な老朽化の改善には程遠いので引き続き長期10カ年計画(平成20年～30年)とし、平成30年を目途として全面改築を行うものとする。また、施設整備費国庫補助負担金等、国・都の補助がなければ実施できない事業であり、制度の動向に留意しながら計画を推進していくこととする。現在の85名定員は見直し計画の通り、職員数・管理費等を勘案しても非効率なため、短期入所生活介護事業を含め100名を基本とする。

(1) 資金計画(自己財源の確保)

自己資金については計画的に積立(改築資金積立金:琴清苑会計内)等の方法により確保していく。

・23年度

- 寿楽荘会計よりの繰入金(10,000,000円)
- 琴清苑会計よりの繰入金(10,000,000円)
- 診療所会計よりの繰入金(20,000,000円)

・24年度

- 寿楽荘会計よりの繰入金(10,000,000円)
- 琴清苑会計よりの繰入金(15,000,000円)
- 診療所会計よりの繰入金(20,000,000円)

・25年度

- 寿楽荘会計よりの繰入金(10,000,000円)
- 琴清苑会計よりの繰入金(15,000,000円)
- 診療所会計よりの繰入金(20,000,000円)

※ 上記金額は、当期末支払資金残高に資金不足が生じない範囲でのみ行うものとする、なお上方、下方修正を適宜する。

3 地域ニーズの把握

役員体制の改革により、地域分担制を推進し各地域のニーズの把握に努め、地域住民や関係機関・団体との連携を強化しつつ、新たな事業展開に結び付けていく。

また、各地域における人材の確保については、若年層・主婦層・団塊の世代等の潜在的労働力の確保に向けて取り組むことを目標とする。